

# 大麦特報 (第3号)

令和7年2月  
なのはな農業協同組合  
富山農林振興センター

一部のほ場で湿害による生育不良がみられます。ほ場を確認し、停滞水がみられる場合は排水対策を徹底し、根域をしっかりと確保しましょう。

分施肥体系で栽培している場合は、大麦の生育回復と穂数確保のため、遅れずに追肥を行いましょ。

## 1. 排水溝の点検・手直し

ほ場内に水が停滞すると、湿害により根の伸長が阻害されるため、生育不良になり、登熟も悪くなります。

ほ場内の排水状況を確認し、停滞水を速やかに排除するため、排水溝の手直しや深く掘り下げた排水口への連結を徹底しましょう。

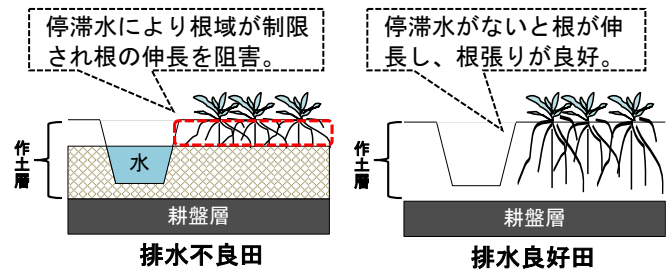


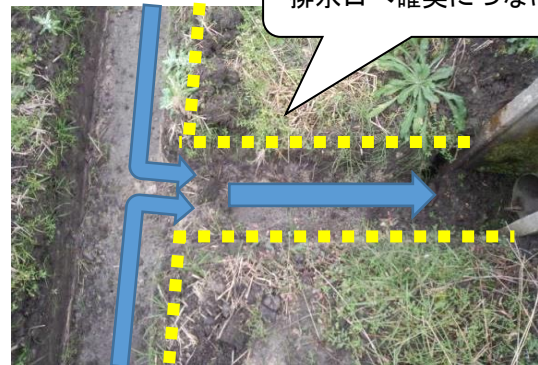
図 排水の良否と根の伸長のイメージ

湿害を受けると、根が張れず養分が吸収できないため、葉色が淡くなる



排水溝の崩れを手直しし、速やかにほ場外へ排水する

溝を連結し、掘り下げた排水口へ確実につなげる



## 2. 消雪後の追肥 (分施肥体系のみ)

冬期間に消耗した大麦の生育を回復させ、適正な茎数、穂数を確保するため、追肥は遅れずに施用しましょう。

**時期** 3月上旬 (消雪後、速やかに)

**施用量** 硫安 20 kg/10 a

※条間の土が見えないような茎数が多いほ場は、施用量を減らしましょう。

※肥効調節型肥料(エコ大麦44号)を施用したほ場では、原則として追肥の必要はありません。(排水溝を手直ししても極端に葉色が淡い場合は、農協や農林振興センターにご相談ください。)